

海外のプロジェクト 遂行はロマンが魅力

東京都市大連続講義

東京都市大学工学部都市工学科は、学生や若手技術者を対象に海外プロジェクトを紹介する特別連続講義「海外建設事業―その現状と展望」を開いている。海外経験、知識が豊富な建設技術者が、海外プロジェクトの現状やこれからの取り組み、課題を説明する。12日の講義では、日揮と日建設シビルの技術者が海外での仕事に必要な心構えを語った。写真。

同講義はゼネコン、建設コンサルタント、メーカーなどの技術者を講師に迎え、都市工学を担う人材育成を目的に2010年から開いている。日揮経営戦略室の笹尾克彦氏は、世界中で展開しているプラント建設事業を紹介し、「プロジェクトマネジメントには、建前ではなくHSE（健康・安全・環境）がもっとも重要になっている」と説明した。さらに、ビッグプロ



ジェクトを遂行する上で「ロマンティシズムを感じられることが大きな魅力」と学生に訴えた。

日建設シビル設計主管の片桐雅明氏は、ベトナムでの地盤調査について紹介した。日本とは試験方法が異なることを踏まえ「ところ変われば試験方法は変わる。グローバル化が進む中、各国の歴史・文化・風土を理解することが大事」と述べた。

11月30日までにあと5回開催する。問い合わせは、同大工学部都市工学科・電話03-5707-2226。

無断転載禁止

著作権は建設通信新聞に帰属します

転載承認済